



三菱ガス化学株式会社

平成 22 年 10 月 18 日

耐熱バイオベースポリアミドを開発

三菱ガス化学(本社：東京都千代田区、社長：酒井 和夫、以下 MGC)は植物由来の原料を使用した高耐熱ポリアミド樹脂の開発に成功し、市場開拓を開始します。

このポリアミド樹脂は、分子構造の最適化により結晶性を高めることで高い耐熱性を実現する一方、融点を 300℃以下に抑え、良好な成形加工性を維持しています。その耐熱温度から、LED 周辺部材、鉛フリーハンダを必要とする電気・電子部品、自動車のエンジン周辺部材などの用途への販売が期待されます。

さらに原料の 50%以上に植物由来の化合物を使用しており、国内ではバイオマスプラスチックに分類されます。

MGCは自社原料を使用したポリアミド樹脂として既にMXナイロンを生産販売しております。新潟工場と米国現地法人であるMGCアドヴァンスドポリマーズ(ヴァージニア州)に合わせて年産約2万5千トンの生産設備を有し、主に食品包装材料用途と成形材料用途に広く販売しております。

今回開発した高耐熱ポリアミド樹脂についても、将来的には同拠点を含む複数拠点での生産を行う予定です。

MGCは、各種エンジニアリングプラスチックの成形材料用途向け販売について、三菱エンジニアリングプラスチック(本社：東京都港区)を通じて行っています。

<本件に関するお問い合わせ先>

広報 I R 部 柴田 TEL:03-3283-5041